

専攻医
の主張

専攻医の挨拶

市立三次中央病院 消化器内科 久保 浩介

私は広島県三次市にある市立三次中央病院に勤務している卒後5年目の消化器内科久保浩介です。広島県呉市音戸町出身で広島県立呉三津田高等学校を卒業し、平成26年に広島大学医学部医学科に入学しました。

医師を志望した動機は元々田舎出身であり、地域医療に従事したいという考えがありました。高校在学中に広島大学のふるさと枠についての説明を大学のスタッフの方がわざわざ高校を訪れて、説明をいただき、理念や教育カリキュラムが自分に合っていると考え、広島大学ふるさと枠を受験しました。

その後、公立みつぎ総合病院にて2年間初期研修を行いました。幅広い研修を行わせていただき、自分が将来地域医療に従事する姿をイメージした際に幅広い疾患に対応できるのは消化器内科ではないかと考え、消化器内科を選択しました。また、上部消化管内視鏡や下部消化管内視鏡、ERCPが非常に楽しかったというのが1番の診療科選択理由となったと考えます。内視鏡検査は腫瘍や良性疾患を早期発見や治療につなげることが可能であり、やりがいのある仕事だと感じました。

初期研修医終了後はJA尾道総合病院にて1年

間従事しました。幅広い疾患と多くの症例を経験させていただき、非常に充実した1年間を過ごすことができました。

その後、後期研修2年目では市立三次中央病院にて勤務させていただきました。自分の出身地を鑑みると十分に都会ではありますが地域医療に従事させていただくことができました。日々の内視鏡による検査や治療に加え、一般内科の症例も多くあり、非常に勉強になっています。

今年の4月からは引き続き市立三次中央病院にて2年目の従事をさせていただいています。1年目は環境の変化や多忙な勤務内容から他のスタッフに気を遣う余裕がありませんでしたが、今年は余裕を持って落ち着いて従事していきたいと考えております。

今年で後期研修医も終わってしまい、さらに責任や診療技術が必要になることを不安に感じています。日々の診療や内視鏡検査/治療により一層邁進し、理想の医師像に向けて努力していきたいと考えております。まだまだ勉強不足ではございますが、今後も積極的に学んでいく所存ですのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

令和5年度 救急小冊子発行のお知らせ

広島県医師会では、毎年9月9日(救急の日)にあわせて、救急医療の啓発を目的に小冊子を作成しております。

今年度は「知っておきたい命の危機に直結する救急疾患」と題した小冊子を発行いたします。

緊急度の高い疾患を症状別に分かりやすくまとめてあり、いざというとき役立つ内容です。

ご希望の方は広島県医師会までお問い合わせいただくか、ホームページよりお申し込みください。

申し込みフォーム

<https://www.hiroshima.med.or.jp/forms/pamphlet/>

広島県医師会 広報情報課

TEL: 082-568-1511 FAX: 082-568-2112

E-Mail: kouhou@hiroshima.med.or.jp

9/9
発行!

広島県医師会